

6月28日のレッスン

勇敢な預言者アモス

鍵となる聖句：「主は、私が羊の群れを飼っているところへ来て、私に言われた。『行け、わたしの民イスラエルに預言せよ。』」
アモス書 7:15

選読箇所：

アモス書 1:1; 2:6-16; 3:1-15; 7:10-17; 9:11-15

アモスはテコアの出身で、そこはベツレヘムの南約6マイルの場所にありました。しかし、彼は明らかに北へ旅して十部族王国の領土に入り、そこで宣教活動の大部分を行いました。アモスは、イスラエルの罪のために降りかかるであろう悲惨な災いを予告し、その忠実さゆえに迫害を受けました。アモス書 2:6-16; 7:10-17

主はアモスを通してイスラエルにこう言われた。「地のすべての氏族のうち、わたしが知っているのはあなたたちだけである。それゆえ、わたしはあなたがたのすべての不義のために、あなたがたを罰する。」そこで、「二人が共に歩むには、互いに合意しなければならないのではないか」（アモス3:2,3）という問いが投げかけられる。ここでの要点は、主がイスラエルを独占的にご自身の民とされた以上、彼らに揺るぎない忠誠を期待しておられたということである。もし彼らがそのよう

に主を礼拝し、仕えようとしなければ、厳しい懲らしめを受けることになる。

アモス書の第九章、すなわち最終章の11～15節において、神は預言者を通して、イスラエルの回復と、「倒れたダビデの幕屋」の再建を予告される。使徒行伝15章13～18節で、使徒ヤコブはこの預言を引用し、さらに「神は、世の初めから、ご自身のすべてのわざを知っておられる」と付け加えています。神はご自身の計画のあらゆる側面に対して、定められた時を持っておられます。すべての被造物は神の管轄下にあり、イスラエルとすべての国々に対する神の御旨はすべて成就されるのです。イザヤ書55章11節

今日、主の民はアモスのように沈黙を強いられることなく、愛をもって真理を語り、とりわけ義と平和の御国の希望を語らなければならない。アモスの預言の結末、そしてヤコブによるその言及は、キリストの統治下における神の御国の確立によって完全に成就する。その時、「残された人々」は主を呼び求め、祝福を受ける機会を与えられるのである。使徒行伝15:16,17

間もなく到来するこの約束の時について、私たちは次のような言葉を目にします。「もはや、隣人に教えたり、『主を知れ』と互いに言い合ったりすることはない。なぜなら、彼らの中で最も小さい者から最も大きい者まで、皆がわたしを知るようになるからだ。わたしは彼らの不義を赦し、もはや彼らの罪を覚えはしない。」（ヘブル人への手紙 8:11,12）。これらの約束は、まずイスラエルに与えられ、その後、すべての国々に広がってい

くでしょう。全人類は、キリストと、その栄光に包まれた教会、すなわち共に「王なる祭司」である者たちの助けを受けることになるのです。（ペテロの手紙一 2:9）。この時、また「地は主の知識で満たされる」のです。私たちはまた、神の知識が極めて明瞭に示されるという確信を持っています。それは「旅人、たとえ愚か者であっても、その道で迷うことはない」ほどにです。イザヤ書 11:9; 35:8

私たちの前に広がっているのはなんと栄光に満ちた展望でしょうか。私たちはこれに常に感謝すべきであり、それは天の父が愛する御子を遣わしてくださったことによって可能となったのです。（ヨハネ3:16；ローマ6:23）。罪も、殺し合いも、憎しみも、「戦争や戦争の噂」もなくなった世界がどのようなものになるか、少し考えてみてください。（マタイ24:6-7）。アモスは、イスラエルの不忠実について語るのに勇気が必要でした。それにもかかわらず、彼は、イスラエルと全人類の未来への希望ゆえに、喜びも持っていたと確信できます。